



平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成24年10月25日

上場会社名 株式会社テラプローブ 上場取引所 東
 コード番号 6627 URL http://www.teraprobe.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡辺 雄一郎
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO (氏名) 神戸 一仁 TEL 045-476-5711
 四半期報告書提出予定日 平成24年11月9日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 有
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績（平成24年4月1日～平成24年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	11,506	2.0	470	△74.5	305	△81.9	365	△62.5
24年3月期第2四半期	11,279	10.3	1,848	△23.4	1,683	△25.5	974	△39.1

(注) 包括利益 25年3月期第2四半期 260百万円 (△62.0%) 24年3月期第2四半期 684百万円 (△55.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	39.33	—
24年3月期第2四半期	105.01	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第2四半期	36,147	21,419	54.3	2,113.27
24年3月期	41,088	21,198	47.1	2,084.22

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 19,616百万円 24年3月期 19,346百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	0.00			

3. 平成25年3月期第3四半期連結業績予想（平成24年4月1日～平成24年12月31日）

当社グループが属する半導体業界は市場環境が短期間に変化するという特徴があり、1年間の業績予想を作成することが困難であります。従いまして、当社グループの連結業績予想につきましては、翌四半期の業績予想のみを開示することといたします。

また、通期業績予想を作成することが困難であるため、配当予想についても開示いたしておりません。

平成25年3月期第3四半期連結累計期間の業績予想は以下の通りとなります。

売上高 15,800百万円、営業利益 △500百万円、経常利益 △700百万円、四半期純利益 △500百万円、1株当たり四半期純利益 △53円86銭

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 有

(注) 詳細は、添付資料P.4「サマリー情報（注記事項）に関する事項（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 有

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(注) 詳細は、添付資料P.4「サマリー情報（注記事項）に関する事項（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年3月期2Q	9,282,500株	24年3月期	9,282,500株
25年3月期2Q	—株	24年3月期	—株
25年3月期2Q	9,282,500株	24年3月期2Q	9,282,500株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】P.3「（3）連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	7
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(6) セグメント情報等	10
(7) 重要な後発事象	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における経済状況は、長引く欧州債務問題や中国経済の減速など、世界経済が減退傾向であることに加え、円高の長期化や電力料金の値上げなど、国内経済も先行きが不透明なものとなっております。

当社グループが属する半導体業界におきましては、特に国内では設備投資も低調で、大手IDMを中心に事業再編による人員削減が実施されるなど引き続き厳しい事業環境が継続しております。

このような状況の下、当社グループでは、テスト受託は横ばいで推移したものの、ウエハレベルパッケージ(WLP)受託が一部製品の生産調整などで減少いたしました。

また当社グループは、当第2四半期において、新たに照明用LED素子のテスト受託を開始いたしました。今後も新分野への取り組みを積極的に進めてまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、11,506百万円（前年同期比2.0%増）、営業利益は470百万円（同74.5%減）、経常利益は305百万円（同81.9%減）、当四半期純利益は365百万円（同62.5%減）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。なお、セグメント別の業績には連結調整額、為替換算レート調整額、セグメント別に配分されない費用を含んでおりません。

① メモリ事業

メモリ事業におきましては、前四半期と比較し、主たる受託品であるDRAMにおいて、テスト時間の長い製品の受託量は増加いたしました。テスト時間の短い製品の受託量が市況の悪化などから低調に推移いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるメモリ事業の売上高は8,089百万円（前年同期比21.1%減）、セグメント利益は1,229百万円（同55.7%減）となりました。

② システムLSI事業

システムLSI事業におきましては、テスト受託は、5月を底に受託量が増加しております。一方、WLP受託は、当社グループが受託している製品のの一部で生産調整があったことなどから受託量が大きく減少いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間におけるシステムLSI事業の売上高は3,436百万円（前年同期比227.7%増）、セグメント損益は12百万円の損失（前年同期は360百万円の損失）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は36,147百万円となり、前連結会計年度末比4,941百万円の減少となりました。これは主に、償却などにより有形固定資産が3,694百万円減少したことや、受取手形及び売掛金が707百万円減少したことによるものです。

負債は14,728百万円となり、前連結会計年度末比5,162百万円の減少となりました。これは主に、返済によりリース債務が2,451百万円減少、設備購入代金の支払いにより設備未払金が1,523百万円減少したことによるものです。

純資産は21,419百万円となり、前連結会計年度末比221百万円の増加となりました。これは主に、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことによるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は5,651百万円となり、前連結会計年度末比94百万円の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、4,950百万円の純収入（前年同期比5.8%収入減）となりました。これは主に、当第2四半期連結累計期間での税金等調整前当期純利益及び減価償却費の計上4,606百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、2,244百万円の純支出（前年同期比67.9%の支出減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出2,178百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、2,577百万円の純支出（前年同期は218百万円の純支出）となりました。これは主に、リース債務の返済による支出2,501百万円、短期借入金の返済300百万円、セール・アンド・リースバック取引による収入413百万円によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当社グループが属する半導体業界は市場環境が短期間に変化するという特徴があり、1年間の業績予想を作成することが困難であります。従いまして、当社の業績予想につきましては、翌四半期の業績予想のみを開示することといたします。

第3四半期における半導体市場は、注目のスマートフォン新製品が発売となり、半導体生産の一部に需要の拡大が見込まれるものの、デジタル家電やPCの需要については引き続き不透明感が続き、半導体生産も厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況の下、メモリ事業におきましては、テスト時間の長い製品は引き続き堅調に推移するものと予想しております。しかし、テスト時間の短い製品は市況の悪化が継続することが予想され、受託量が大きく減少するものと予想しております。

システムLSI事業におきましては、テスト受託は概ね順調に推移するものの、WLP受託では、生産調整の影響が継続するものと予想しております。

当社グループは、今後も引き続き、新規受託を目指した営業活動を推し進めるとともに、役員報酬の削減など経費削減に努めてまいります。上述のような状況から、第3四半期連結累計期間の業績予想は、売上高15,800百万円、営業損益500百万円の損失、経常損益700百万円の損失、四半期純損益500百万円の損失を見込んでおります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

第1四半期連結会計期間より、連結子会社1社において、退職給付債務の計算方法を簡便法から原則法に変更しております。この変更は、適切な引当金の計上及び期間損益の適正化を図る目的で行ったものであります。

当該会計方針の変更は遡及適用され、前連結会計年度においては遡及適用後の連結財務諸表となっております。なお、遡及対象の期間は、前年第3四半期以降であるため、前第2四半期累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はございません。また当第2四半期連結累計期間の期首の純資産に累積的影響額が反映されたことにより、利益剰余金の期首残高は291千円減少しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

当社の主たる株主であり、当四半期連結累計期間において当社グループ売上高の約56%を占める主要顧客でもあるエルピーダメモリ株式会社は、平成24年2月27日に東京地方裁判所に対し会社更生手続開始の申し立てを行い、平成24年3月23日に同裁判所よりエルピーダメモリ株式会社に対し会社更生手続開始決定がなされました。

エルピーダメモリ株式会社は、会社更生手続開始の申し立て後もDRAM事業を継続しており、当社は引き続きウエハテスト業務を同社より受託しております。しかし、当四半期末時点では、エルピーダメモリ株式会社の再建に向けた更生手続が継続中で、更生計画の認可までには至っていないという状況であるため、エルピーダメモリ株式会社の将来に関する不確実性を当社が完全に排除することは困難であります。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,557,662	5,851,678
受取手形及び売掛金	3,537,532	2,830,025
製品	27,861	5,783
仕掛品	253,265	205,168
原材料及び貯蔵品	91,012	89,704
その他	1,208,830	523,844
貸倒引当金	△295	△181
流動資産合計	10,675,868	9,506,023
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具（純額）	22,886,511	19,829,449
その他（純額）	5,915,428	5,277,571
有形固定資産合計	28,801,940	25,107,021
無形固定資産		
投資その他の資産	704,186	652,230
破産更生債権等	3,120,838	3,129,572
その他	487,122	462,320
貸倒引当金	△2,701,160	△2,709,478
投資その他の資産合計	906,800	882,414
固定資産合計	30,412,926	26,641,666
資産合計	41,088,795	36,147,689
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,173,851	935,746
短期借入金	1,858,764	1,481,555
1年内返済予定の長期借入金	300,000	150,000
リース債務	3,960,205	2,936,297
未払法人税等	103,938	37,333
引当金	499,503	421,155
その他	3,402,333	1,680,310
流動負債合計	11,298,595	7,642,399
固定負債		
リース債務	7,263,534	5,836,416
引当金	229,541	250,887
その他	1,099,110	998,821
固定負債合計	8,592,185	7,086,125
負債合計	19,890,781	14,728,524

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,823,312	11,823,312
資本剰余金	11,380,267	11,380,267
利益剰余金	△3,558,151	△3,193,056
株主資本合計	19,645,428	20,010,523
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△298,651	△394,063
その他の包括利益累計額合計	△298,651	△394,063
少数株主持分	1,851,236	1,802,703
純資産合計	21,198,013	21,419,164
負債純資産合計	41,088,795	36,147,689

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	11,279,693	11,506,748
売上原価	8,533,174	9,883,124
売上総利益	2,746,518	1,623,623
販売費及び一般管理費	897,590	1,152,689
営業利益	1,848,927	470,934
営業外収益		
受取利息	2,761	916
設備賃貸料	19,045	17,565
還付加算金	—	8,593
受取補償金	58,036	—
その他	8,871	12,969
営業外収益合計	88,714	40,045
営業外費用		
支払利息	123,699	98,683
休止固定資産減価償却費	58,202	60,117
支払補償費	58,283	—
その他	13,940	47,021
営業外費用合計	254,126	205,822
経常利益	1,683,515	305,157
特別利益		
固定資産売却益	105,822	125,792
特別利益合計	105,822	125,792
特別損失		
固定資産売却損	3,653	627
固定資産除却損	26,426	597
特別損失合計	30,080	1,224
税金等調整前四半期純利益	1,759,258	429,725
法人税等	689,931	△17,571
少数株主損益調整前四半期純利益	1,069,326	447,296
少数株主利益	94,529	82,201
四半期純利益	974,797	365,095
少数株主利益	94,529	82,201
少数株主損益調整前四半期純利益	1,069,326	447,296
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△385,094	△187,082
その他の包括利益合計	△385,094	△187,082
四半期包括利益	684,232	260,214
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	778,398	269,683
少数株主に係る四半期包括利益	△94,166	△9,468

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,759,258	429,725
減価償却費	4,341,845	4,176,304
引当金の増減額 (△は減少)	△56,872	△52,785
受取利息	△2,761	△916
支払利息	123,699	98,683
設備賃貸料	△19,045	△17,565
還付加算金	—	△8,593
受取補償金	△58,036	—
支払補償費	58,283	—
固定資産除売却損益 (△は益)	△75,742	△124,567
売上債権の増減額 (△は増加)	390,354	681,612
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△66,687	70,117
仕入債務の増減額 (△は減少)	134,325	△237,631
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	△70,288	△20,549
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	△155,362	△153,256
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	—	△5,957
その他	△13,056	12,584
小計	6,289,914	4,847,203
利息の受取額	2,757	897
利息の支払額	△124,049	△98,683
補償金の受取額	58,036	—
損害賠償金の支払額	△58,283	—
法人税等の還付額	—	337,049
法人税等の支払額	△915,702	△135,842
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,252,673	4,950,623
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△350,000
定期預金の払戻による収入	—	150,000
有形固定資産の取得による支出	△7,178,698	△2,178,064
有形固定資産の売却による収入	225,361	149,304
無形固定資産の取得による支出	△51,656	△30,941
設備賃貸料の受取額	19,920	14,583
資産除去債務の履行による支出	△3,800	—
その他	△3,935	943
投資活動によるキャッシュ・フロー	△6,992,808	△2,244,174
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	—	△300,000
長期借入金の返済による支出	△150,000	△150,000
リース債務の返済による支出	△3,234,492	△2,501,446
セール・アンド・リースバック取引による収入	3,166,154	413,679
少数株主への配当金の支払額	—	△39,357
財務活動によるキャッシュ・フロー	△218,337	△2,577,125
現金及び現金同等物に係る換算差額	△44,727	△35,307
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,003,201	94,016
現金及び現金同等物の期首残高	7,211,189	5,557,662
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,207,988	5,651,678

(4) 継続企業の前提に関する注記

当社の主たる株主であり、当四半期連結累計期間において当社グループ売上高の約56%を占める主要顧客でもあるエルピーダメモリ株式会社は、平成24年2月27日に東京地方裁判所に対し会社更生手続開始の申し立てを行い、平成24年3月23日に同裁判所よりエルピーダメモリ株式会社に対し会社更生手続開始決定がなされました。

エルピーダメモリ株式会社は、会社更生手続開始の申し立て後もDRAM事業を継続しており、当社は引き続きウエハテスト業務を同社より受託しております。しかし、当四半期末時点では、エルピーダメモリ株式会社の再建に向けた更生手続が継続中で、更生計画の認可までには至っていないという状況であるため、エルピーダメモリ株式会社の将来に関する不確実性を当社が完全に排除することは困難であります。当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社では、売上高は順調に推移しており、当面の事業運営に必要な事業資金は確保しておりますが、当該状況が解消されるまで、保有設備のより一層の稼働率向上による売上収入の増加に加えて、様々な資金調達策による手元資金と設備投資用資金の更なる上積みを検討してまいります。

しかし、これらの施策に関わらず、主要な得意先であるエルピーダメモリ株式会社が更生会社となり更生計画が認可されていないため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

エルピーダメモリ株式会社は、平成24年7月2日にマイクロン・テクノロジー・インクとスポンサー契約を締結しており、平成24年8月21日に更生計画案を東京地方裁判所に対し提出しております。エルピーダメモリ株式会社のDRAM事業が継続される可能性は高いと想定しており、またエルピーダメモリ株式会社広島工場のウエハテスト工程を全量受託している当社は、更生計画認可後も引き続きウエハテスト業務を受託できる可能性は高いと考えております。エルピーダメモリ株式会社の更生計画が認可され、当社へのウエハテスト業務委託が継続される場合には、このような不確実性は解消すると考えております。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	メモリ事業	システム LSI事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,253,277	1,048,605	11,301,883	△22,189	11,279,693
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	10,253,277	1,048,605	11,301,883	△22,189	11,279,693
セグメント利益又は 損失(△)	2,774,932	△360,361	2,414,570	△565,642	1,848,927

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△565,642千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△579,069千円、連結消去17,797千円、円換算に用いた為替相場の相違による差異調整額△4,371千円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに属していない一般管理費です。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 2	合計 (注) 3
	メモリ事業	システム LSI事業(注) 1	計		
売上高					
外部顧客への売上高	8,089,930	3,425,368	11,515,298	△8,550	11,506,748
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	11,260	11,260	△11,260	-
計	8,089,930	3,436,628	11,526,558	△19,810	11,506,748
セグメント利益又は 損失(△)	1,229,226	△12,245	1,216,980	△746,046	470,934

(注) 1. 平成23年10月1日より株式会社テラミクロスが子会社になったことから、株式会社テラミクロスの業績をシステムLSI事業に含めております。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△746,046千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△743,210千円、連結消去△1,471千円、円換算に用いた為替相場の相違による差異調整額△1,365千円が含まれております。

全社費用は、主に報告セグメントに属していない一般管理費です。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。